



12月4日～10日は人権週間

みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち

未来へつなげよう 違いを認め合う心～

12月4日～10日は
人権週間

昭和23年に国連で「世界人権宣言」が採択されたことを記念して、毎年12月4日～10日を「人権週間」と定め、全国的に人権意識を高めるための啓発活動が行われます。市でも人権を守る作品展や特設人権相談、人権を考える市民の集いなどの取り組みを行います。

人権について考える機会にしてみませんか。

場所 マドカホール（荒木町1丁目）

問合せ 人権・男女共同参画課 人権推進担当（☎423・9562）

12月3日～9日は
障害者週間

「だれもが尊厳を持ち自立を支え合い 共に生きる社会」を目指して障害者を取り巻く課題への理解を深め、障害者が社会の様々な分野で活躍できる社会づくりについて考えてみましょう。

●街頭キャンペーン

日時 12月4日(月)午後4時

場所 ラパーク岸和田（春木若松町）、トークタウン（土生町2丁目）

●ふれあい作品展

市内の支援学級・支援学校

の児童・生徒や障害者の作品を展示します。

日時 12月6日(水)～8日(金)午前9時半～午後5時（最終日は午後2時まで）

場所 マドカホール（荒木町1丁目）

問合せ 障害者支援課 障害福祉担当（☎423・9446）

12月10日～16日は
北朝鮮人権侵害問題啓発週間

拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題について関心と認識を深めましょう。

問合せ 岸和田警察署（☎439・1234）

性はいろいろ、人それぞれ

性別にとらわれずに誰もが自分らしく生きることを認め合える社会をめざして、いわゆる「LGBT」と呼ばれる性的マイノリティ（少数者）について知ることから始めてみませんか。

●ほんとうはたくさん

性を3つの視点で考えると様々なタイプがあります。

- ①からだの性（生物学的な性）：生物学的な体の特徴が男性か女性か
- ②こころの性（性自認）：自分の性をどのように認識しているか
- ③恋愛対象（性的指向）：恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか

●いろいろな個性

「生物学的な性」と「性自認」が一致している人や、「性的指向」が異性に向いている人が多数派とされる一方で、これらにあてはまらない性的マイノリティの人がいます。

| | | | |
|-------------------------------|----------------------------|---|---|
| L レズビアン 女で女が好きな人 | G ゲイ 男で男が好きな人 | B バイセクシュアル 好きになる人の性別は関係ない人 | T トランスジェンダー 心と体の性別に違和感を持つ人 |
|-------------------------------|----------------------------|---|---|

●生きづらさをなくすために

性自認や性的指向は、自分の意思で選んだり変えたりできるものではありません。性的マイノリティの人権問題に関する社会の理解はまだ十分に進んでおらず、差別や偏見が存在する中、多くの当事者が生きづらさを感じています。誰もがありのままにいられる社会をめざしたいですね。

●今、悩みや不安を感じている人へ

ひとりで抱え込まずに心の重荷をおろしてみませんか。

問合せ 大阪府人権相談窓口（☎06-6581-8634）
FAX 06-6581-8614 ✉so-dan@jinken-osaka.jp



今回は、障害者就労支援員が日々の仕事を通して感じたことを紹介します。

働くことの意味

自分にとって働くことはどんな意味をなすか、改めて考えたことはありますか。

恐らく生活のためと答える人が多いのではないのでしょうか。私もそう答えます。綺麗ごとではなく、衣食住を確保するために働いているのですから。

しかし、障害者の就労支援に携わる中で、日々仕事について考えさせられますが、「お金をもらえたら何でもよい」と思っている人はそれほど多くはなく、よほど意志の強い人でないとお金のためだけに働き続けるのは難しいのではないかと感じています。モチベーションを維持できず、働く喜びを感じることもできなくて、その仕事を辞めてしまうのではないかと感じます。

人を輝かせるもの

何が人を輝かせるのかを考えたときに、障害の有無に関わらず「必要とされること」ではないかと思えます。

必要とされて働くことで、作業がその人にとっての「仕事」となり、職場が「居場所」とな

ります。

また、社会での役割を持つことで、自尊心が生まれ、その人が輝くことができるのではないのでしょうか。

必要とされる人材に

私たち支援員は、その人が「必要とされる人材」となるように支援しています。

障害者本人に必要なことは「自分の障害と向き合い、社会に適応するための課題を捉え、補う力を身につけること」ではないかと思えます。自ら解決できる課題は自分で解決し、それでも残る課題は、企業の合理的配慮により補うことも考える。企業は、本人と向き合い、理解し、障害に配慮して働きやすい環境を作る姿勢が必要となります。

本人の努力と企業の努力、どちらかだけでは難しいこともあります。そこで、その人がその職場、その作業で必要とされる環境となるよう、私たち支援員も一緒に考え、その人の力を生かす職場づくりをしていくことが大切だと感じています。

お互いの努力があれば、障害者が社会でより活躍できるのではないのでしょうか。



障害者支援課
人権・男女共同参画課